

## 第4章

# 省エネルギー等に関する 市民・事業者の意識調査

省エネルギーを推進するためには、私たちの価値観、ライフスタイルを見直すことが必要とされています。  
市民（家庭及び事業者）の方の省エネルギーに対する認識、エネルギー消費の実態などを把握するためアンケート調査を実施しました。

## 第4章 省エネルギー等に関する市民・事業者の意識調査

### - 1 市民・事業者の意識調査について

#### ◆調査の概要・目的

市民の地球環境問題や省エネルギーについての意識および日常生活・事業活動におけるエネルギー消費の実態把握を行うとともに、行政として取組みが望まれる政策・課題についての意見を集約し、北広島市の地域特性に相応しい省エネビジョンを策定するための基礎資料を得ることを目的としてアンケート調査を実施しました。

#### ◆調査対象

一般家庭については、北広島市世帯数 **24,208** 世帯（平成 **17** 年 **5** 月末現在）から **700** 世帯を対象としました。

事業者は北広島市の公共施設を除く **722** 事業所（従業者 **5** 人以上）から **395** 事業所を対象としました。

#### ◆回収率

アンケートの発送は平成 **17** 年 **9** 月 **5** 日に行い、締め切りを **9** 月 **15** 日としましたが、締切日以降に郵送されたものも回収いたしました。

また、回収率の向上を図るため、回答期間中にアンケートへの協力依頼を葉書でお願いしました。

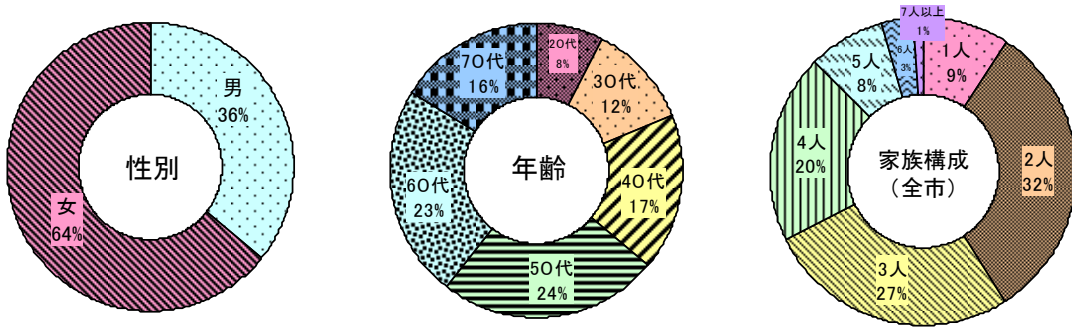
回収結果は以下の通りです。

	調査対象数 a	回収数 b	回収率 (b / a)
市民（一般家庭）	<b>700</b> 件	<b>434</b> 件	<b>62%</b>
事業者	<b>395</b> 件	<b>164</b> 件	<b>42%</b>
合計	<b>1,095</b> 件	<b>598</b> 件	<b>55%</b>

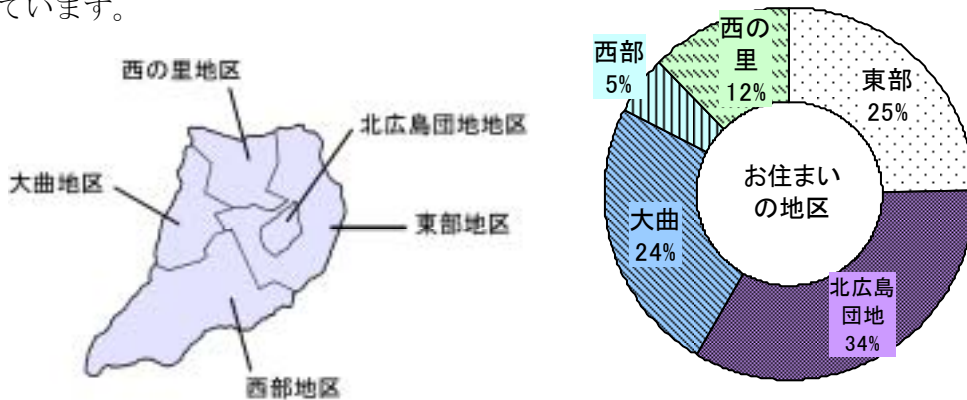
## 1 市民（家庭）の意識調査結果

### (1) 回答者の概要

回答者は男性が**36%**、女性が**64%**で女性の回答者が多く、年代は**40代～60代**が約**64%**を占めています。家族構成では単身が約**9%**、**2人世帯**が最も多く約**32%**、**3人世帯**が**27%**、**4人世帯**が約**20%**となっており、**4人以下**で約**90%**を占めています。



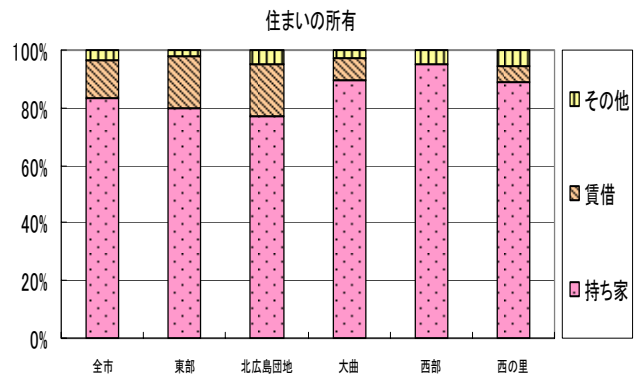
回答者の居住地区比率はほぼ地区の人口比例となっており、東部地区で約**25%**、北広島団地地区で約**34%**、大曲地区で**24%**となっており、**3地区**で約**83%**を占めています。



### (2) 住居形態

#### a 住まいの所有

お住まいの所有は地区によって若干異なり、大曲地区、西部地区および西の里地区では持ち家比率が約**90%**以上となっていますが、東部地区約**80%**、北広島団地地区では、約**77%**となっています。

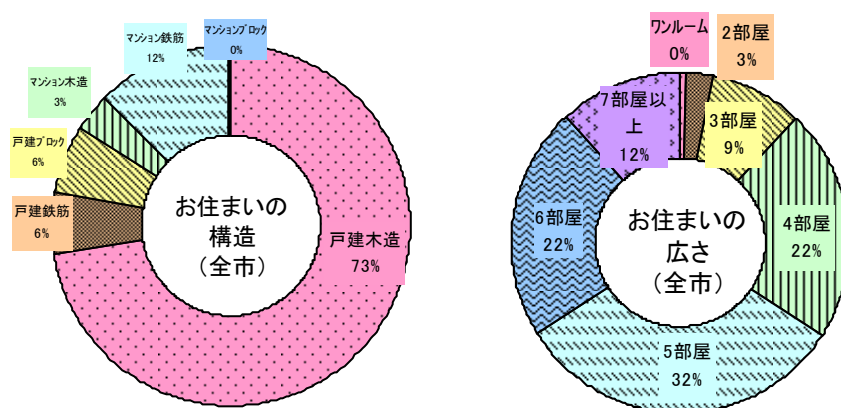


**2003(平成 15)年住宅・土地調査**における北海道の住宅持ち家比率は約**54.1%**となっていますので、北広島市の持ち家比率は非常に高いと言えます。

b 住まいの構造および広さ

住宅構造は戸建木造が約 **73%** となっており、戸建て鉄筋およびブロックと合わせると戸建てが全体の約 **85%** を占めています。また、住居の部屋数は **5 部屋** が最も多く約 **32%** となっています。

なお、**2003(平成 15)年住宅・土地調査**における北海道の **1 住宅** 当たりの居住室数は **4.53** となっています。



c 住まいの建築年次

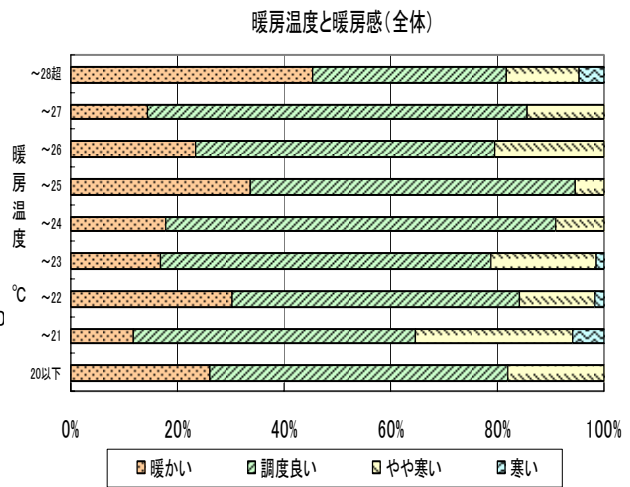
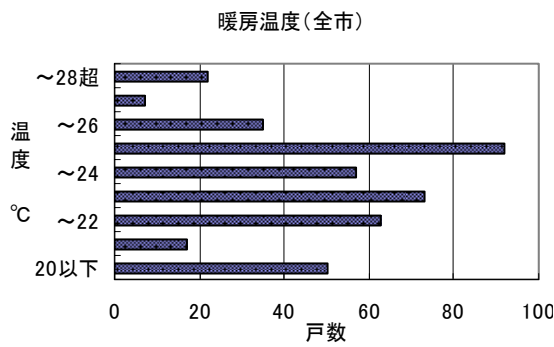
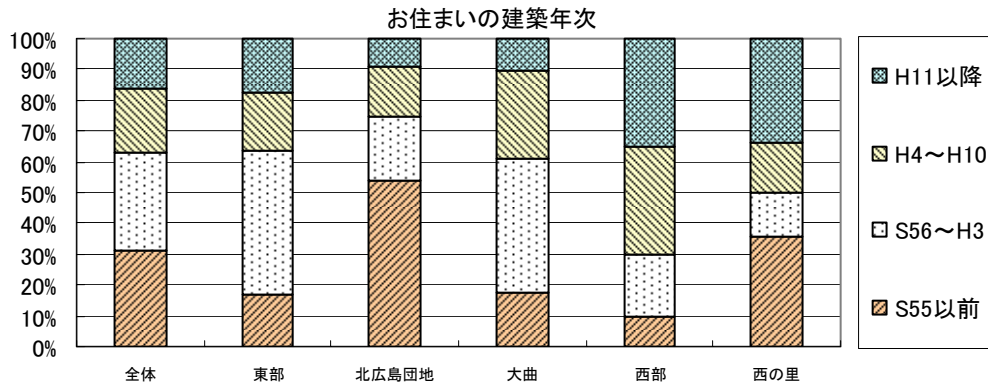
北海道における建物の省エネルギー基準を熱損失係数で示すと表 4-1 の通りで、**1980(昭和 55)年基準**を **100** とすると **1992(平成 4)年基準**以降は約半減しており、住宅の省エネ化が格段に向上しています。

表 4-1 住宅の省エネルギー基準

基準	基準年	熱損失係数 $W/m^2 \cdot k$	指数
旧省エネルギー基準	1980(S55)年	3.26	100
新省エネルギー基準	1992(H 4)年	1.74	53
次世代省エネルギー基準	1999(H11)年	1.60	49

なお、熱損失係数とは住宅全体の断熱性能を表す数値で、冬、室内外の温度差  $1^{\circ}C$  の時に、延べ床面積  $1 m^2$  当たり  $1$  時間に失われる熱量のことで、Q 値と呼ばれています。この値が小さいほど熱が逃げにくく、断熱性能のよい建物です。

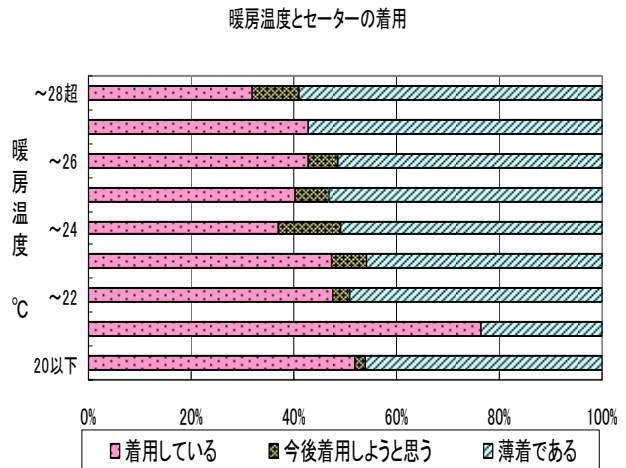
お住まいの建築年次を、省エネルギー基準が大幅に改善された **1992(平成 4)年** 前後で区分すると、**1991(平成 3)年** 以前に建築された住宅が全体で約 **63%**、地区別では北広島団地地区が最も多く約 **75%** となっています。



(3) 暖房温度と暖房感

暖房期間における暖房温度は22℃～26℃とされている方が多く、平均の暖房温度は全市で23.5℃となっています。暖房温度の地区別差は殆どなく、全ての地区で23℃～24℃の範囲内となっています。

暖房温度と暖房感の関係では暖房温度を低く設定されている方が、やや寒いと感じている割合が多いものの、全般的にみると暖房温度にかかわらず約80%の方が暖かいあるいは調度良いと感じています。



セーターは、暖房温度が低いご家庭の方が着用されている割合が若干高くなっています。暖房温度に関わらず薄着をされている方が多く、また、薄着が定着しているようで、今後、セーターの着用を考えている方は少ないようです。

(4) 家電の保有状況

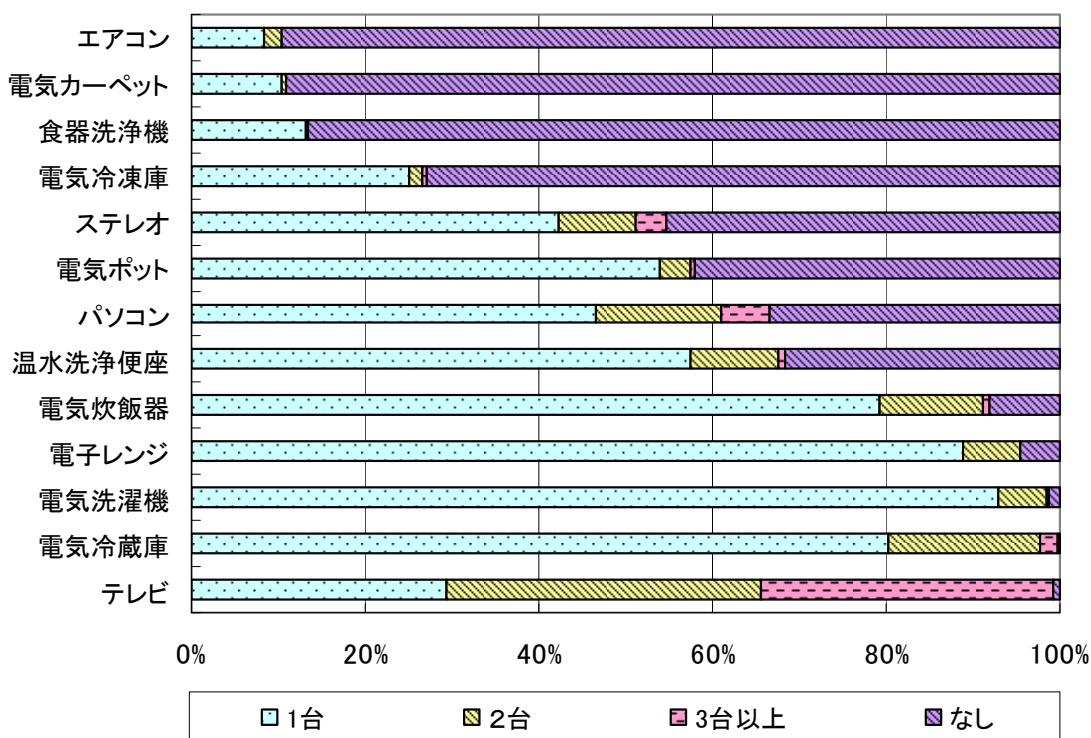
テレビ、電気冷蔵庫、電気洗濯機はほとんどのご家庭で保有されており、テレビを2台保有は約36%、3台保有も約34%と2台以上保有されているご家庭は約70%となっています。

電子レンジは約95%、電気炊飯器は92%、温水洗浄便座は約68%、パソコンは約67%保有されています。

冷凍食品の普及が目覚ましいことから、電気冷凍庫の所有は約27%となっており、4軒に1軒は電気冷蔵庫と電気冷凍庫を組み合わせで保有していることとなります。

一方、保有が少ない機器はエアコン、電気カーペットで約10%、食器洗浄機で13%となっています。

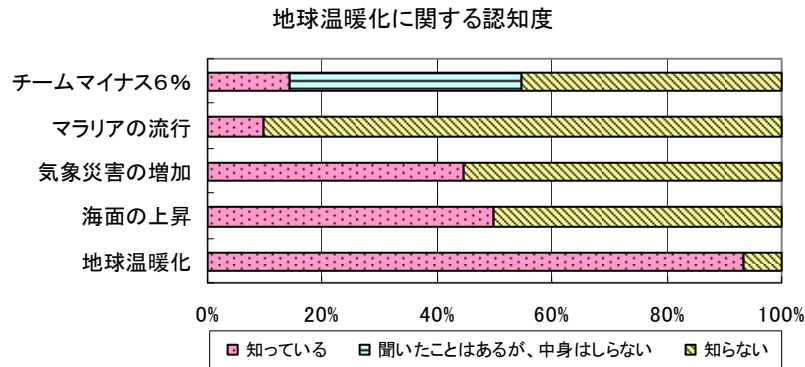
家電製品保有状況



(5) 地球温暖化に関する認知度

二酸化炭素等による地球温暖化の進行については **93%**の方がご存知です。しかし、海面の上昇、気象災害の増加等日本への影響を知っている方は半数で、西日本でのマラリアの流行については **10%**の方しかご存知ないようです。

地球温暖化防止の国民的プロジェクトであるチーム・マイナス6%については **14%**の方が知っているとは回答するに止まり、十分な認知には至っていないようです。

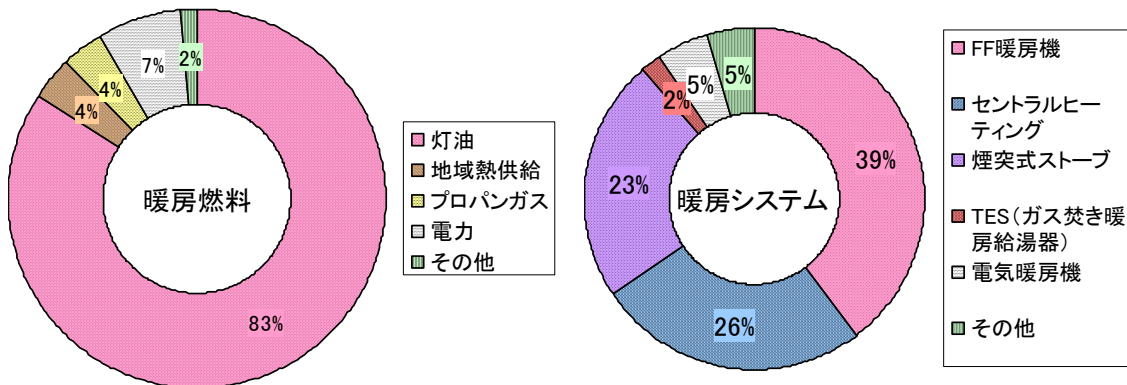


(6) エネルギーの使用状況

暖房エネルギーは「灯油」が **83%**と最も多く、次いで「電力」が **7%**、「プロパンガス」および「地域熱供給」がそれぞれ **4%**となっています。

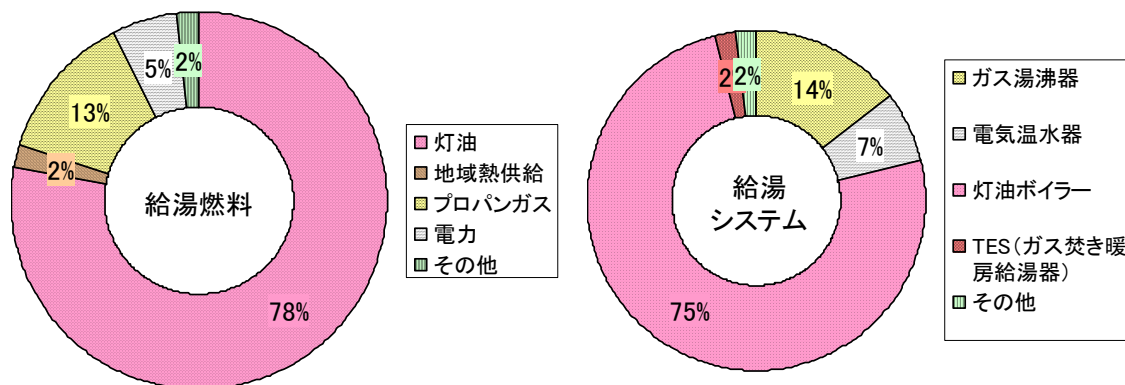
暖房機では **FF暖房機**が **39%**と最も多く、次いでセントラルヒーティング **26%**、煙突式ストーブ **23%**となっています。

室温の上下温度差が少なく、省エネルギーに有効で、健康にも理想的といわれる床暖房の設置は **30%**となっています。

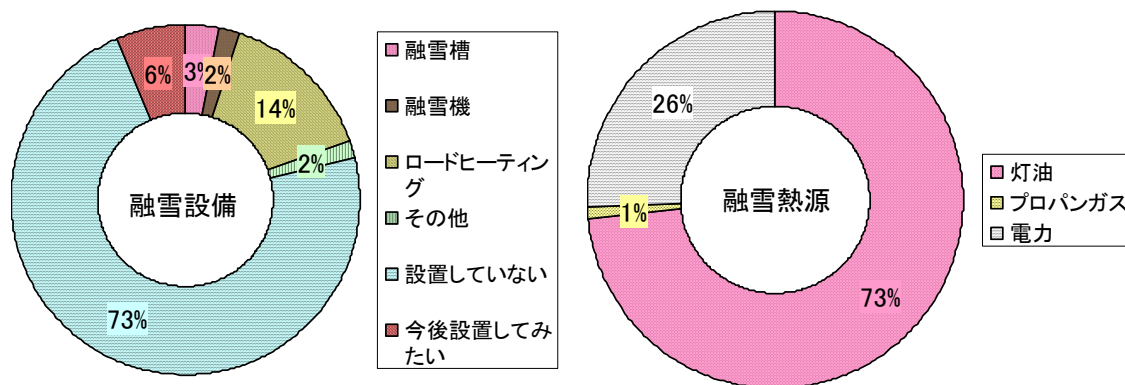


給湯エネルギーは「灯油」が最も多く **78%**、次いで「プロパンガス」**13%**、電力**5%**となっています。

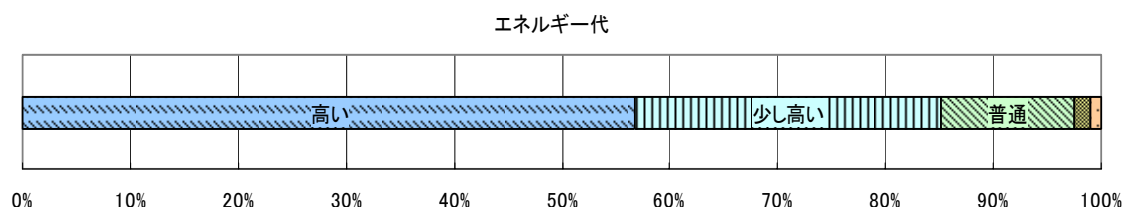
給湯システムでは「灯油ボイラー」が **75%**、ガスを利用した「瞬間湯沸器」および **TES**（ガス焚き暖房給湯器）で **16%**、電気温水器が **7%**となっています。



融雪設備の設置は合計で **21%**となっています。また、**6%**の方が今後設置したいと回答しています。その他として屋根、軒先の融雪設備等が設置されています。融雪熱源は灯油が **73%**、電力が **26%**となっています。



暖房・給湯などのエネルギー代については「高い」あるいは「やや高い」と感じている方が **85%**となっており、多くの方が光熱費の負担を感じています。





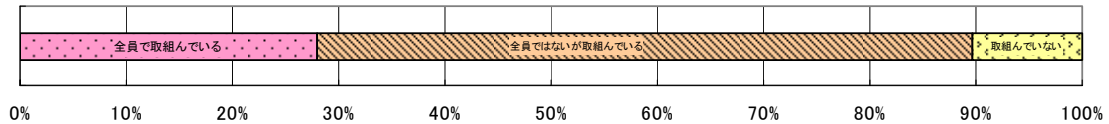
(7) 省エネルギーへの取組み状況

a 省エネルギーへの具体的な取組み

ご家庭における省エネルギーへの取組み状況についてうかがいました。

ご家族全員あるいは一部の方で取組まれていると回答されたのは約 **90%** となり、省エネルギーに対する取組み意識は非常に高いといえます。

省エネルギーへの取組み状況

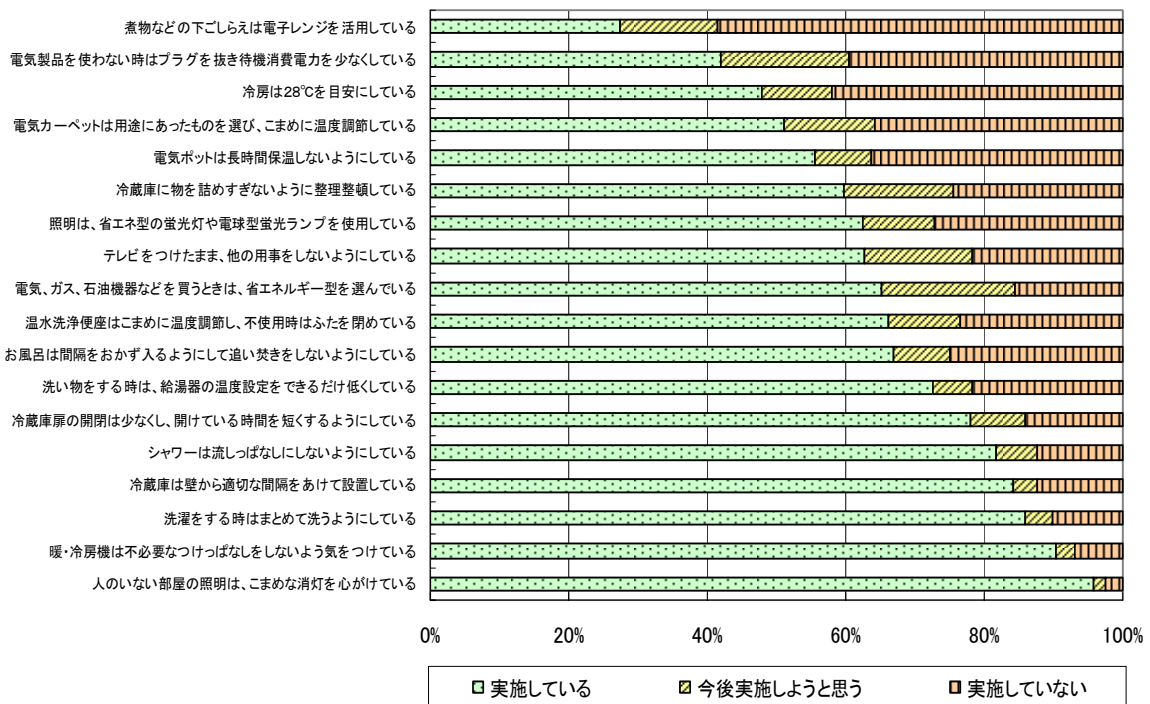


具体的な取組みについてリビング、キッチン、浴室・洗面所に分け、回答をいただきました。結果は下図の通りで、**18** 項目のうち、**50%**以上の家庭で取組まれている項目は **15** 項目となっており、今後実施してみたいとする意見をふくめると **17** 項目となります。

省エネ効果の高い、 unnecessaryな暖冷房の停止については約 **90%**、シャワーの流しっぱなしストップは **82%**、給湯設定温度の低下は **73%**、続けて入浴は **67%**のご家庭で取組まれています。

一方、煮物などの下ごしらえは電子レンジを活用すると回答された方は約 **27%**と最も低くなっています。

省エネルギー取組み項目

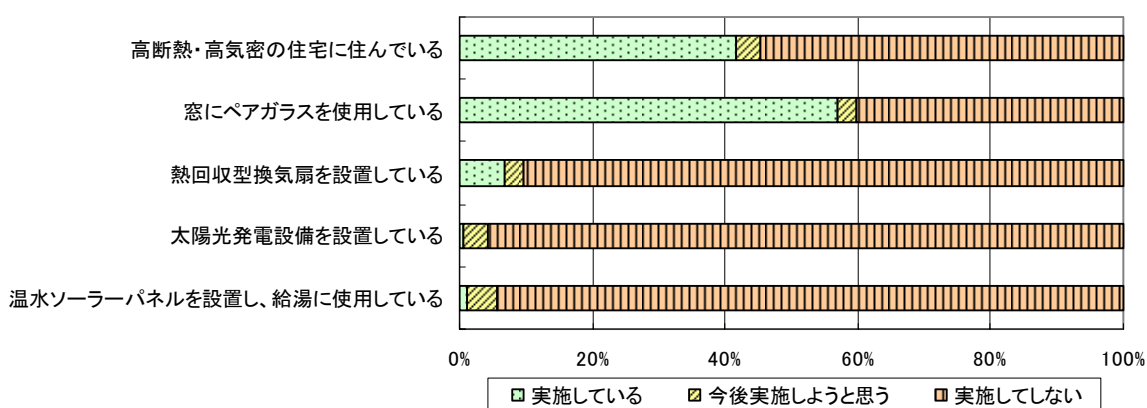


b 住宅の省エネ

お住まいで省エネルギーにつながる建材や機器の使用状況についてうかがいました。

高断熱・高気密の住宅に住んでいると回答された方は約 **42%**、ペアガラスの使用は **57%**、熱回収型換気扇の使用は **7%**となっています。また、太陽光を利用した温水ソーラーパネルを設置している住宅は **1.2%** (4 戸)、太陽光発電設備の設置は **0.6%** (2 戸) となっています。

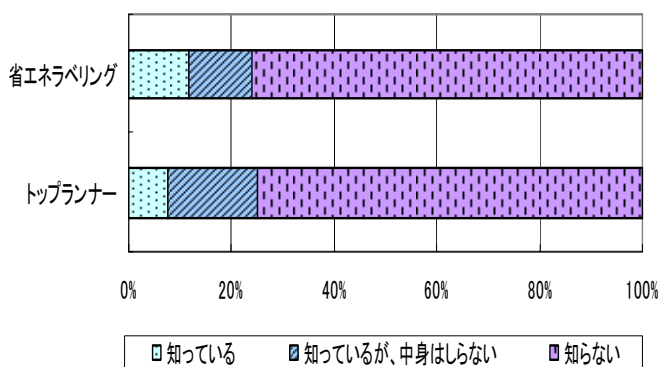
省エネルギー建材・機器の使用



c 省エネルギー制度の認知度

トップランナー方式および省エネラベリング制度の認知度はそれぞれ **8%**、**12%**と低い数値となっています。

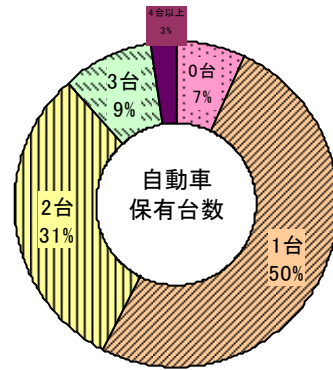
なお、トップランナー方式とは電気製品や自動車などの省エネルギー基準を、現在製品化されている最も効率の良い製品の性能か、それ以上に設定する方式で、機器あるいは自動車等の買い替え時に、トップランナー機器を選択することにより、生活の快適性を損なうことなく、自動的に省エネにつながるものです。



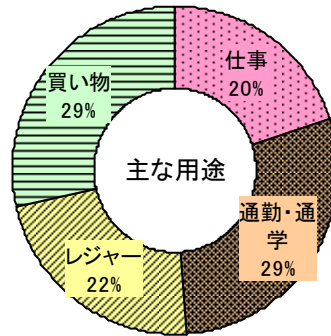
(8) 自家用車の省エネ

a 保有状況および用途

自家用車は一家に1台が50%、2台が31%、3台が9%となっており、自家用車の普及が進んでいます。使用用途は通勤・通学および買い物が29%、レジャー22%、仕事が20%となっています。

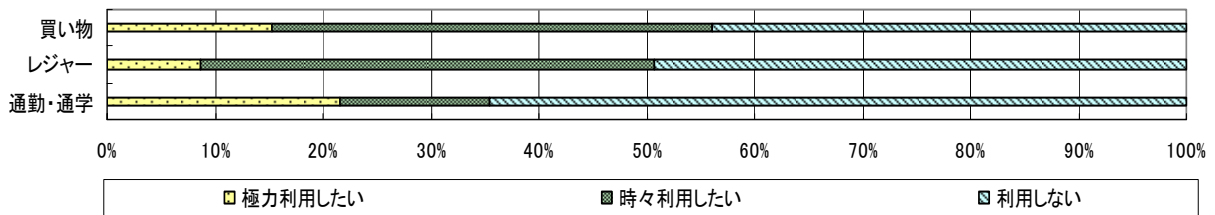


通勤・通学、レジャー、買い物に自動車を使用されていると回答された方のうち省エネルギーの観点から、今後、自動車利用を控え、自転車、バス、JR等を極力利用したいあるいは時々利用したいと回答された方は、通勤・通学で36%、レジャーで51%、買い物で56%となっており、公共交通への利用に前向きな姿勢がうかがえます。

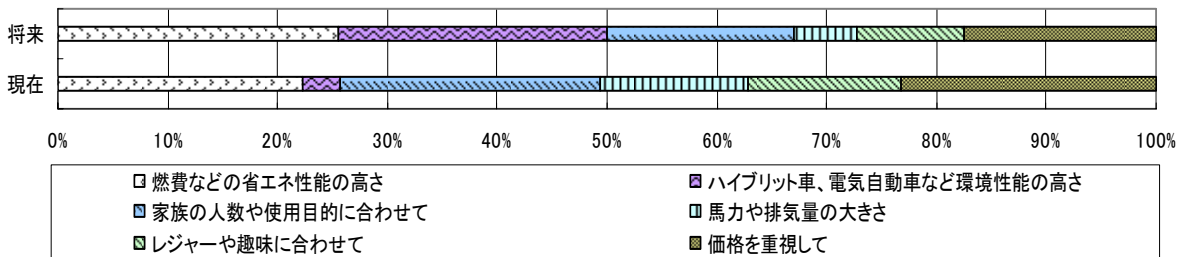


現在の自家用車の車種選択で、環境性能を基準に購入された方は3%ですが、将来は24%と大幅に増加しているのが特徴的で、公共交通の利用も含め、市民の環境問題、省エネに取り組む関心の高さが良く現れています。

自動車の用途



自動車の選択基準

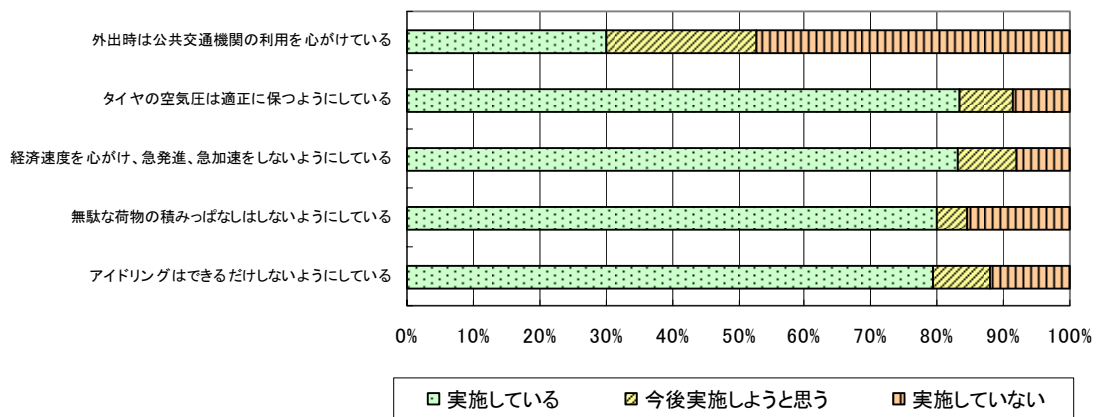


**b** 省エネ運転への取組み状況

省エネ運転への取組み状況を具体的にうかがいました。

公共交通機関の利用が約**30%**と低いものの、今後を含めると**50%以上**の方が、また、タイヤ空気圧の適正化、経済速度の維持、無駄な荷物の積みっぱなし防止、アイドリングの抑止については約**80%以上**の方が、取組まれています。

省エネ運転の取組み



(9) ご家庭で省エネルギーを進める上でお困りのこと

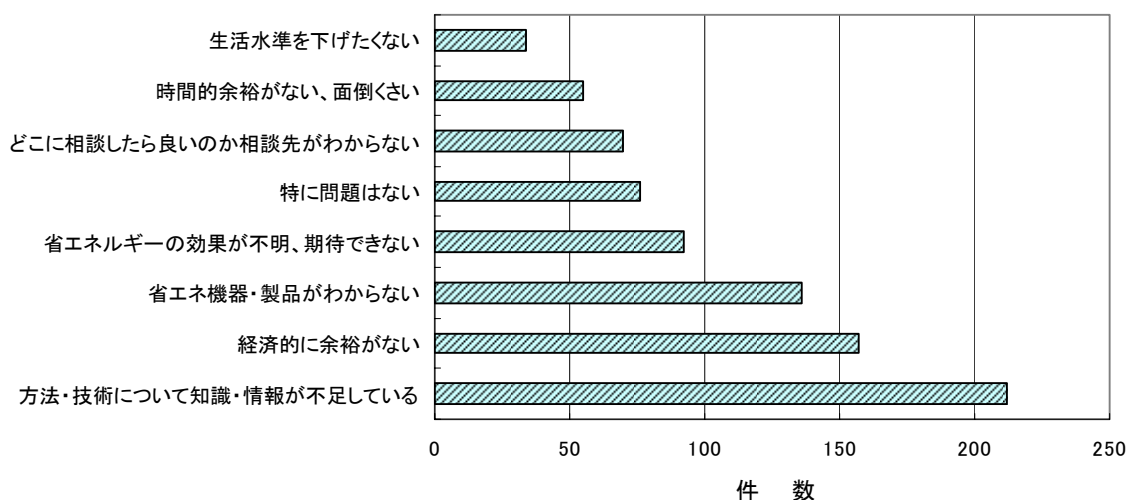
省エネルギーを進める上で、お困りのことについて複数選択していただきました。選択いただいた回答のうち、

- ・方法・技術について知識・情報が不足している。
- ・省エネ機器・製品がわからない。
- ・どこに相談したら良いのか相談先がわからない。
- ・省エネルギーの効果が不明、期待できない。

は、全体の約 57%を占めていますが、これらの項目については、何らかの形で省エネルギーに関わる知識、情報の提供を十分に、工夫しながら行なうことによつて解消が期待される項目と考えられます。

また、経済的に余裕がないとする意見も多く出されています。

省エネルギーを進める上でお困りのこと



自由意見は 80 通寄せられており、設問項目以外に関わる意見としては以下の通りです。

○自分でも他人まかせな意見だなと思うのですが...

- ・省エネと家計が比例しているとわかればやりがいを感じる。けれども、手間がかかり過ぎるとその時間ももったいなく感じる。
- ・省エネと環境問題も気にはなるけど、本当に自分のとった行動が省エネや環境問題に貢献できているのか目に見えるものが少なくて、やる気が失いがちになる。周りがもっと省エネについてもっと騒ぎ出すとそうか！じゃあ私も... という気にもなるが、あまりにも聞かないので、それほど重要でもないのかな？と思ってしまう事もある。で、自分だけ頑張ってるのって何か馬鹿みたいと思った事もある。

- 交通の面で **JR** やバスの利用は嫌いではないのですが、家族での移動などでは特に人数分の運賃となると、ガソリン代とは比べ様もないほど高くなってしまいますので、もっとファミリー割引や省エネ割引？何かがあると嬉しいです。省エネに個人的には協力したいと思いますが、みんながそう思わないと実現できないのもっと国民にむけてテレビ等でこの問題を取り上げてほしいです。（私もこのアンケートを読んで、今までより興味を持ちました。）
- リユース商品の不足等、根本的な部分がどうにもならない歯がゆさを感じます。
- 交通機関がもっと充実していれば公共のバス・**JR** を利用したいが、本数も少なく、冬場は遅れて時間があてにならないため利用しにくい。

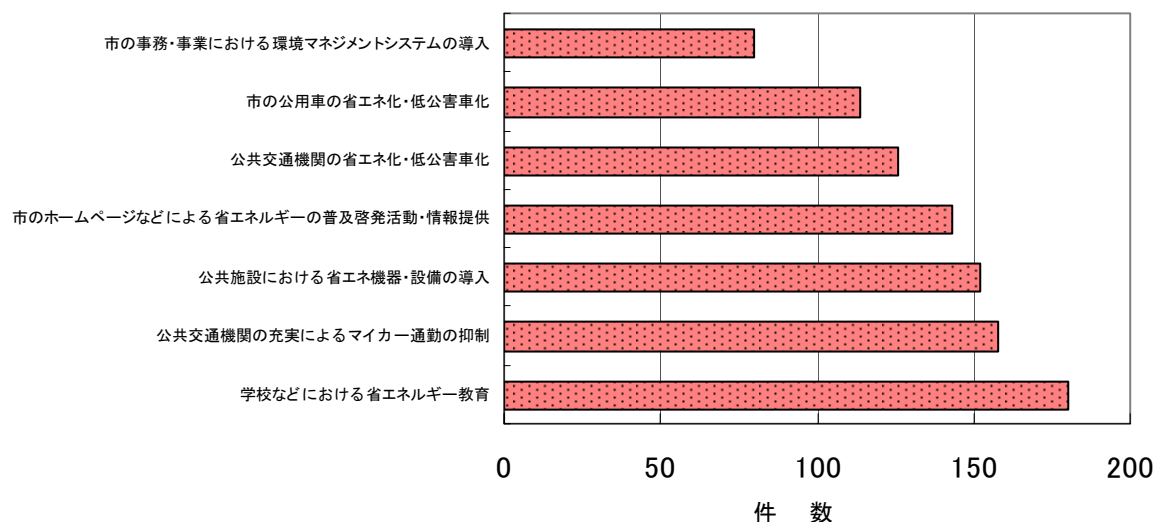
(10) 行政に対して望まれる施策について

北広島市で取り組むことが望ましい施策を複数選択していただきました。

- ・学校などにおける省エネルギー教育
- ・公共交通機関の充実によるマイカー通勤の抑制
- ・公共施設における省エネ機器・設備の導入
- ・市のホームページなどによる省エネルギーの普及啓発活動・情報提供

の順で選択されていますが、偏ることなく、ほぼ全体的に選択されていると考えられ、言い換えれば、多角的な取り組みが求められていると考えられます。

行政に対して望む施策



自由意見は 60 通寄せられており、設問項目以外に関わる意見としては以下の通りです。

○私は環境問題に関して非常に興味がありますが、たいていの人は関心がなく、”めんどくさい”とエネルギーやゴミの削減などをやってくれません。(以前住んでいた時、環境モニターをやっていて感じました。)いくら行政が講座を開いたり、ポスターやカレンダーを配布しても、やらない人はやりません。では、どうすればそういう人が動くのか...それはエネルギー削減するとトクになる事。逆にやらないとソンをしてしまう。という仕組みを作ること。太陽光発電、ソーラーパネル等エネルギー削減になるものには市からの補助金を出したり、削減ポイント等を作って何か得な事。逆に車の停車中にアイドリングしたままの車に対して注意をあたえたり罰金を取る。電気代は使えば使うほど  $Y=X^2$  グラフのようにどんどん高くなり、節約するともものすごく安い...とか。

全然関係ないけど、函館で(私の以前住んでいた)ゴミが有料化されてゴミの量が減りました。きちんと分別して出している人は得をしてそうでない人はソンをしてしまう...だからみんなきちんと分別をしていました。こんな風に人間自分が得になる事なら、結構めんどくさがるんじゃないかと思います。このアンケートはエネルギーですが、ゴミの有料化は北広島市でもやるべきだと思います。燃やせるものまで埋立てていると聞きました。有料化するお金で焼却炉を作り(そんなに高温が出なくても良い安い焼却炉)もやせるものでダイオキシンが出ないものだけでも燃やしたほうが良いと思うのですが。

○「北広島市」として環境マネジメントシステム (ISO14000 シリーズ) を取得する事により省エネ対策が推進されるのでは...

行政として取り組んで結果の効果を「数字」または「金額」により広報等で公表して市民に姿勢を示しては...

行政として町内会等の会合に出席して省エネ対策の必要性と大切さを語りあう事。こうすることにより市民(地域住民)一人一人に省エネに対する意識が少しでも高まるのでは...

○広報などで大きく目標を掲げ、その結果と経過を大きく告示するべき。ホームページでは限定されすぎる。このアンケートはよいと思いました。

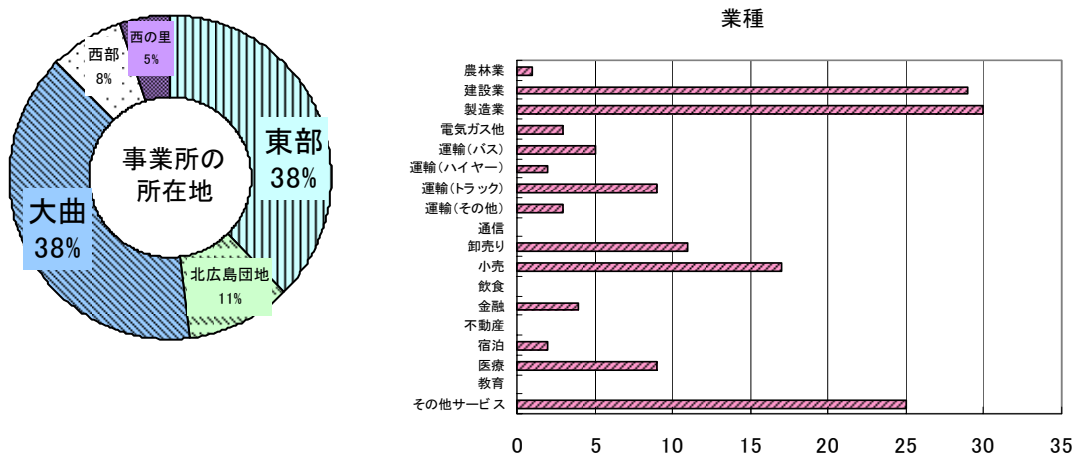
○各家庭に細かく指導・案内した省エネルギーに関する「マニュアル本」を配って欲しい。具体的な省エネの仕方がわからない。

## 2 事業者の意識調査結果

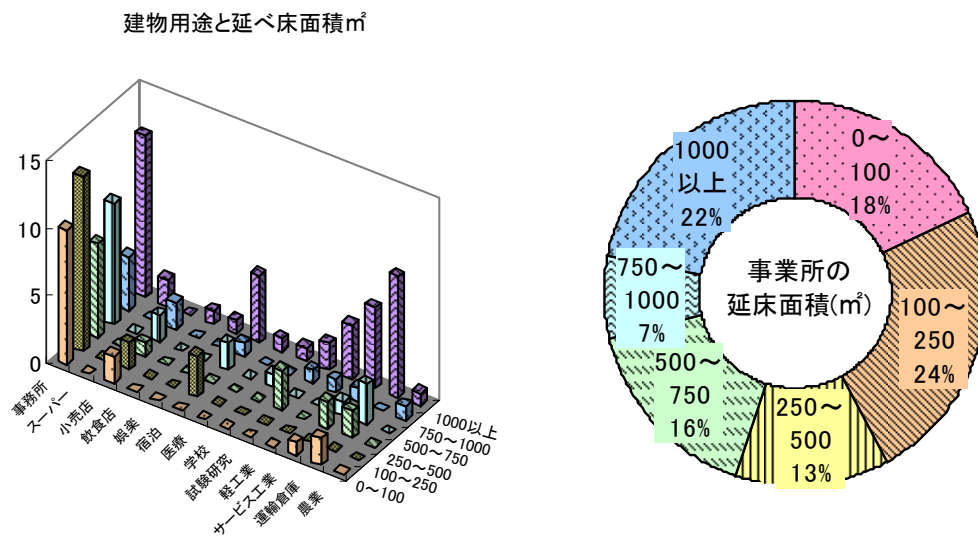
### (1) 事業者の概要

回答をいただいた事業者の所在地は東部地区および大曲地区でそれぞれ **38%** となっています。

業種では製造業、建設業、その他サービス業、小売業が多くなっています。

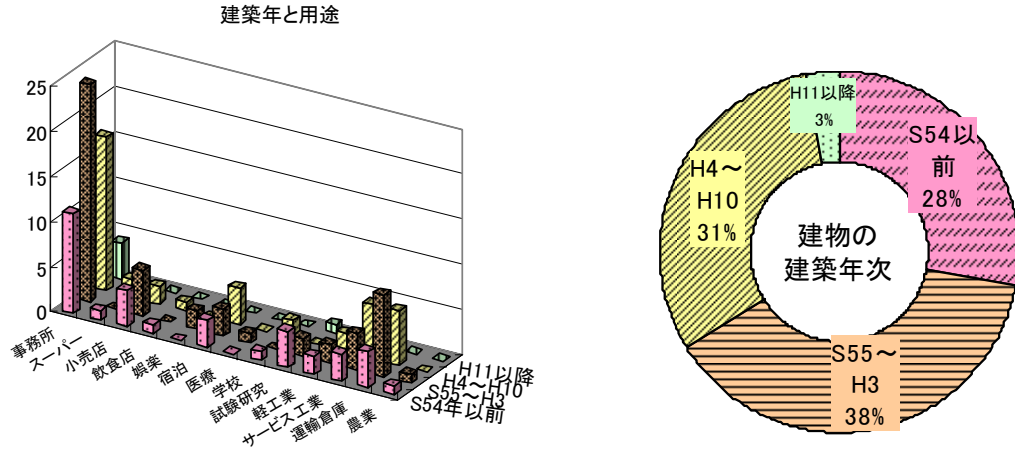


事業所の建物用途と延床面積の関係は下図の通りで、事務所としての使用が多く、全体の約 **40%** を占めています。また、事務所の延べ床面積は **1,000 m<sup>2</sup>** 以下が約 **80%** で、比較的小規模な事務所が多くなっています。

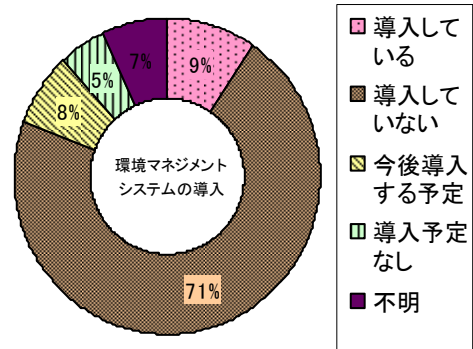




建築年次では **1992(平成 4)年**の省エネルギー基準制定前に建てられた事務所が全体で **65%**となっており、住宅とほぼ同程度となっています。



環境マネジメントシステム (ISO14001) を取得している事業所は **9%** (15 事業所) で、製造業、サービス業およびその他サービス業で多く取得されています。

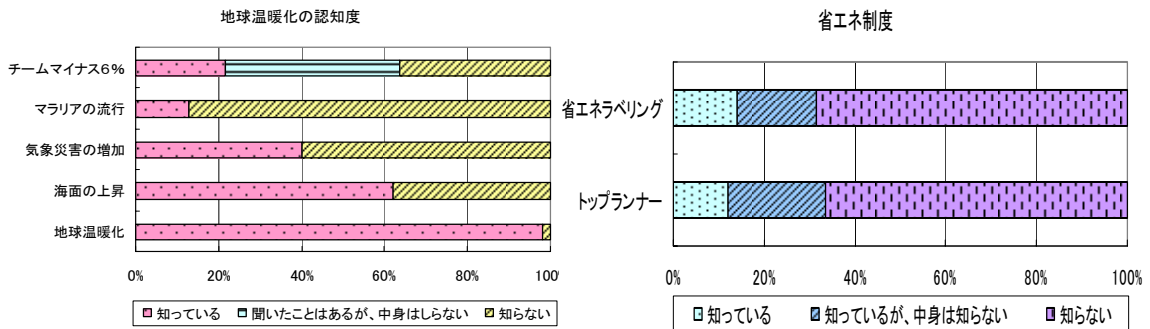


また、今後、導入を検討している事業所は **8%** (12 事業所) となっています。

(2) 地球温暖化および省エネルギー制度の認知度

地球温暖化については殆どの事業者がご存知ですが、日本への影響およびチーム・マイナス6%については家庭と同様に認知度は低くなっています。

また、トップランナー方式、省エネラベリング制度についても知っているとは回答されたのは約 **13%**で、家庭と同様に認知度は低くなっています。



(3) 省エネルギーへの取組み状況

製造業と製造業以外について設問を分け省エネルギーへの取組み状況をうかがいました。

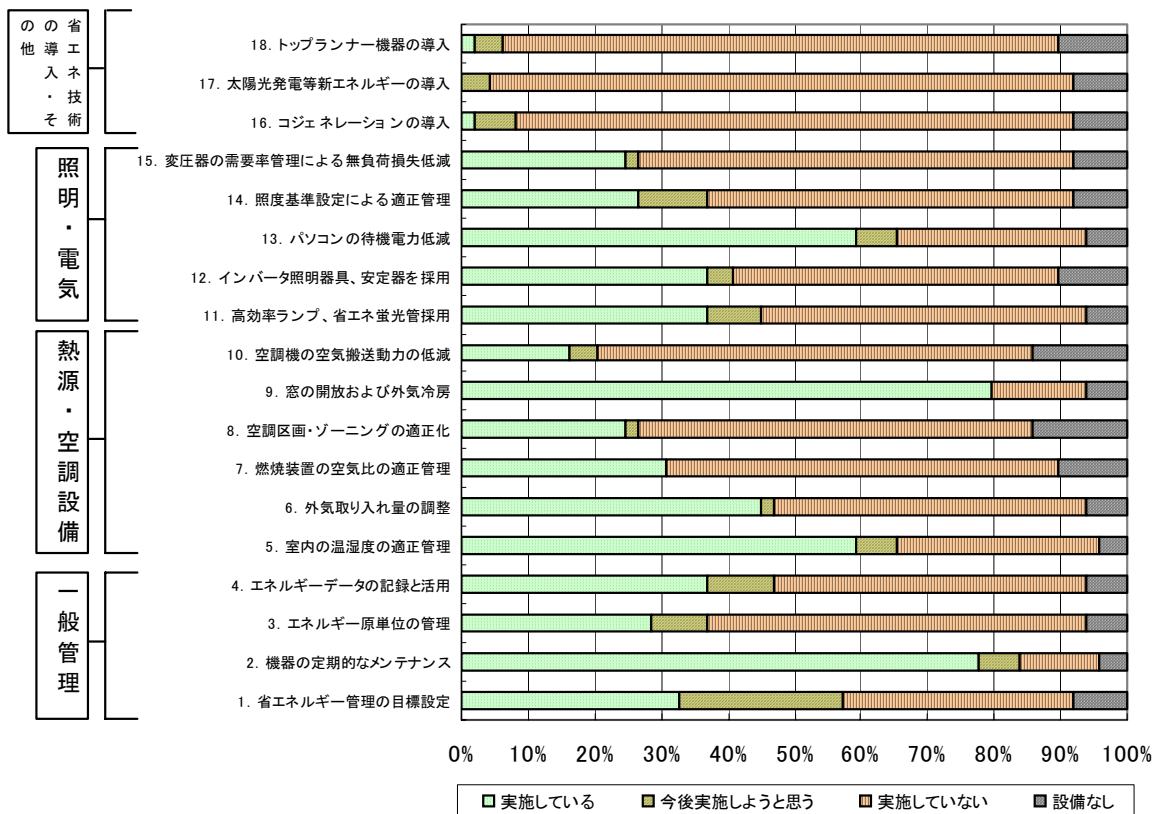
a 製造業の省エネルギーへの取組み

製造業の事業者者に具体的な省エネルギーの取組み項目をうかがいましたが、製造業以外の事業者からも回答がありましたので、これらも含めた結果を示します。

一般管理に関する項目について見ると、機器の定期的メンテナンスは約 80%の事業者が実施されていますが、省エネルギー管理の目標設定、エネルギー原単位の管理、データの活用については 29%~37%と低く、管理体制に改善の余地があるようです。

また、熱源・空調に関する項目では燃焼装置空気比の適正管理、空調区画・ゾーニングの適正化、空調空気搬送動力の低減、照明・電気に関する項目においても実施率が 50%を下回る項目が多く、改善の余地が十分に残されているようです。省エネ設備の導入・その他に関する項目については、設備投資を伴うためと想定されますが、実施率は低く 5%を割っています。

省エネルギーの実施状況



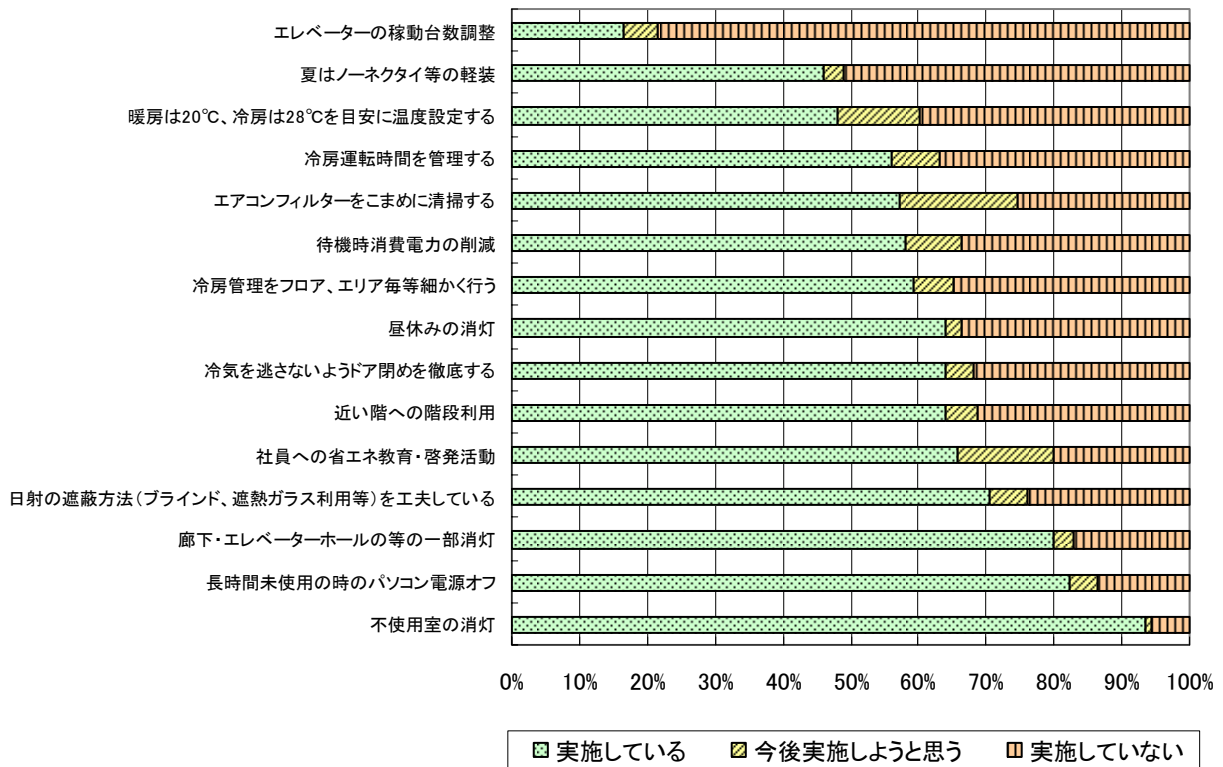
**b 製造業以外の事業者の省エネルギーへの取組み**

製造業以外の事業者に具体的な省エネルギーの取組み項目をうかがいましたが、製造業の事業者からも回答がありましたので、これらも含めた結果を示します。

15 項目中 12 項目が実施率 50%以上となっており、省エネに取組まれている様子がうかがえます。

平成 17 年の夏季はチーム・マイナス 6%のアクションプログラムとしてノーネクタイ等の軽装（クールビズ）が推進されましたが、市内事業者の取組み結果は 46%で、今後取り組んで見たいとする事業所も 3%に止まっています。

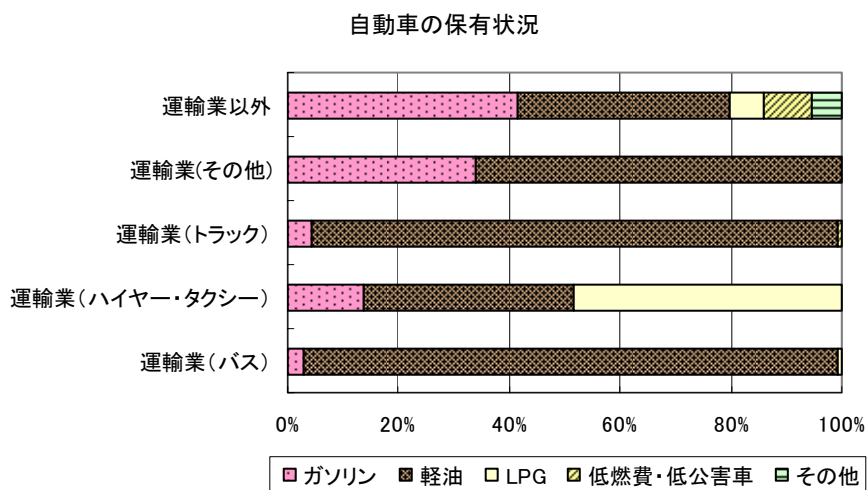
省エネルギーの実施状況



(4) 自動車の保有状況と省エネ運転・管理

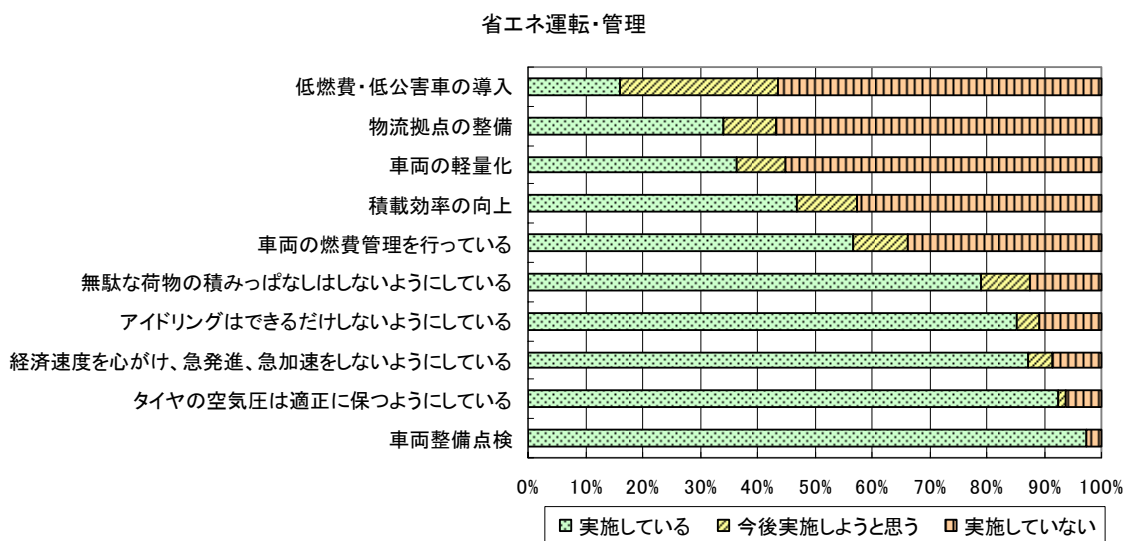
a 自動車の保有状況

自動車の保有状況を運輸業（4区分）と運輸業以外に大別して見ると、軽油自動車の割合が非常に高く、運輸業における低燃費・低公害車の導入は進んでいないようです。



b 省エネ運転・管理

省エネ運転・管理に関わる具体的な取組みを見ると、不必要なアイドリングの停止、無駄な荷物の排除、経済速度運転、車両の整備点検など日常活動で取組むことのできる項目については十分な取組みが実施されているようですが、車両の軽量化、低燃費・低公害車の導入など設備投資を伴う取組みの実施率は低くなっています。



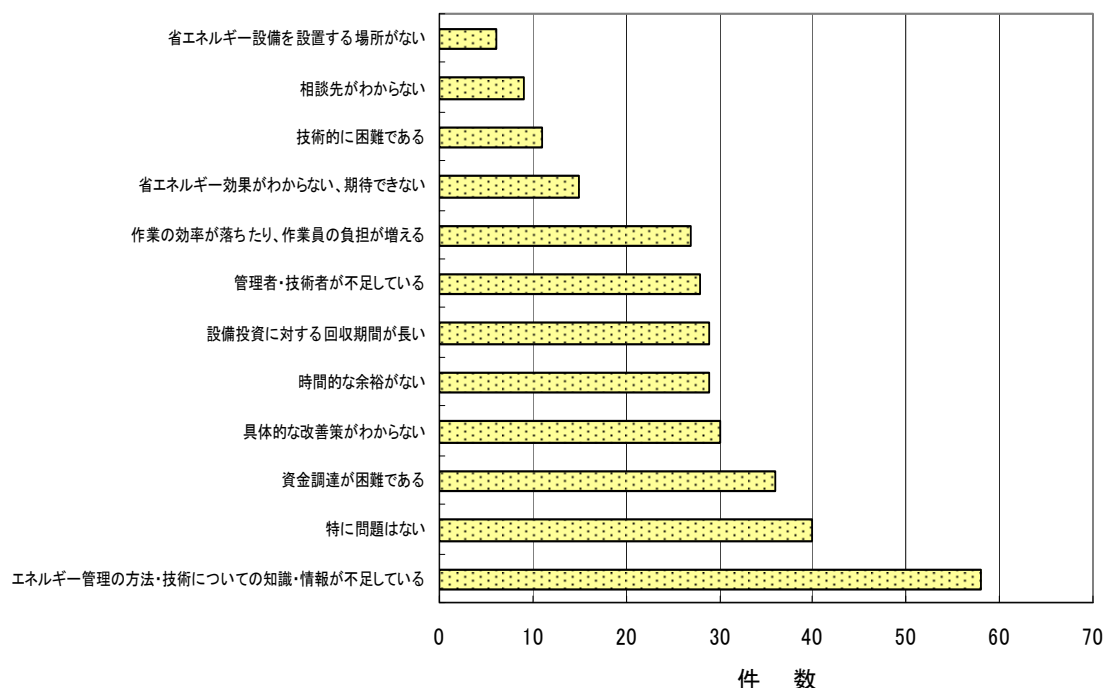
(5) 省エネルギーを進める上でお困りのこと

事業者が省エネルギーを進める上で、お困りのことについて複数選択していただきました。

- ・エネルギー管理の方法・技術についての知識・情報が不足している

と回答された事業者が最も多くなっていますが、特に問題なしと回答された事業者も2番目に多い結果となっています。

省エネルギーを進める上でお困りのこと



自由意見は 13 通寄せられており、設問項目以外に関わる意見としては以下の通りです。

- 会社全体として、環境負荷の低減への取組み、そしてリサイクルへの取組み等積極的に行っております。ただ、社の経営を左右する設備投資については、短期、中長期を見据えて優先順位を厳格に行っております。そうした中では弊社のポジショニングから省エネへの設備投資は中々難しい状況にあります。今後、企業内努力にて省エネ対策を更に進行させて参る所存です。
- 仕事として提案する立場にあります。地熱による融雪、雪による冷房冷蔵貯蔵等。車輛のうち乗用車については、燃費のみで車種を決めている。
- 経営は家族で行っているのもので全てに気をつけている。

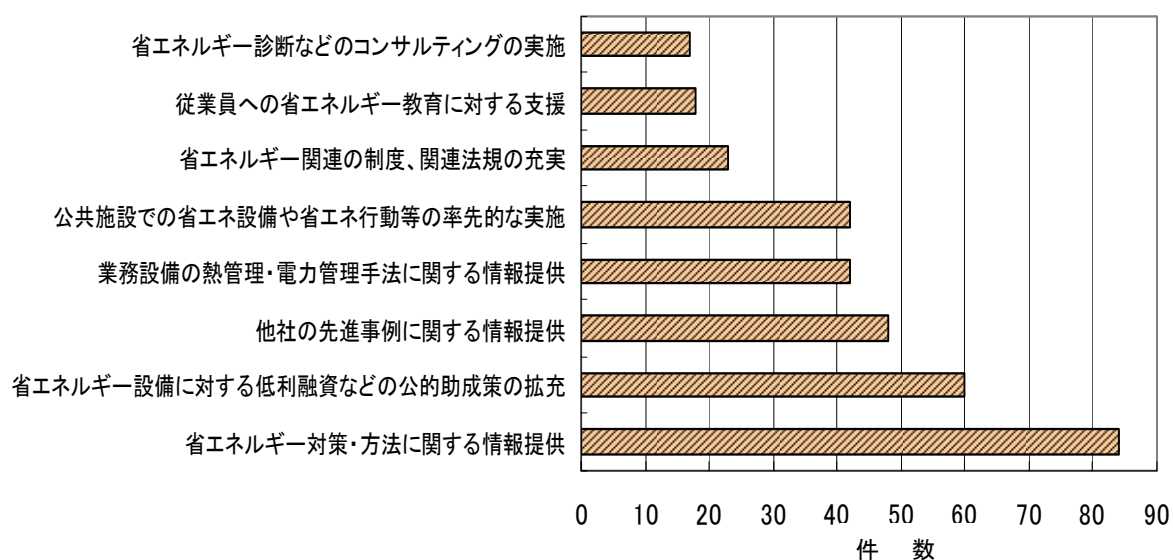
(6) 行政に対して望まれる施策について

北広島市で取組むことが望ましい施策を複数選択していただきました。

- ・省エネルギー対策・方法に関する情報提供
- ・省エネルギー設備に対する低利融資などの公的助成策の拡充
- ・他社の先進事例に関する情報提供
- ・業務設備の熱管理・電力管理手法に関する情報提供

の順で回答が多くなっています。

行政に対して望む施策



自由意見は 5 通寄せられており、設問項目以外に関わる意見としては以下の通りです。

- 公共施設については、石油に代替するエネルギーとして、風力・太陽光熱発電を活用すること
- 行政を担当する職員がコスト意識を持って尚かつ、実行する→スローガンではだめ
- 今回の調査結果を生かした具体策の早急な実施を望みます。この調査に使った税金を無駄にしないよう目に見えるような報告と検証をお願いします。

## - 2 環境家計簿モニター調査

### 1 調査の目的

地球温暖化防止、省エネルギーを推進するためには市民の皆さん一人ひとりの取組みが欠かせません。「環境家計簿」は具体的な省エネルギー行動の実践を毎日記録していただくもので、取組み状況および省エネルギー（二酸化炭素削減）効果の推移把握を目的としてモニター調査を実施しました。

### 2 モニター対象

24,208 世帯（平成 17 年 5 月末現在）から 30 世帯を抽出し、調査対象としました。

### 3 モニター期間

平成 17 年 9 月上旬から 11 月上旬までの 2 ヶ月間としました。

### 4 モニター項目と集計

エネルギーの消費を「電気」「水」「ガス・灯油」「クルマ」の 4 つに分類、さらに「電気」「水」では 4 つ、「ガス・灯油」「クルマ」では 3 つの省エネ取組み項目を設定しました。

その実績を毎日ポイントとして記録し、1 週間単位で合計しました。

ポイントは「ポイントの目安」を基準に、

■目安の通りに実施した場合・・・1 ポイント

■目安の 2 倍実施した場合・・・2 ポイント

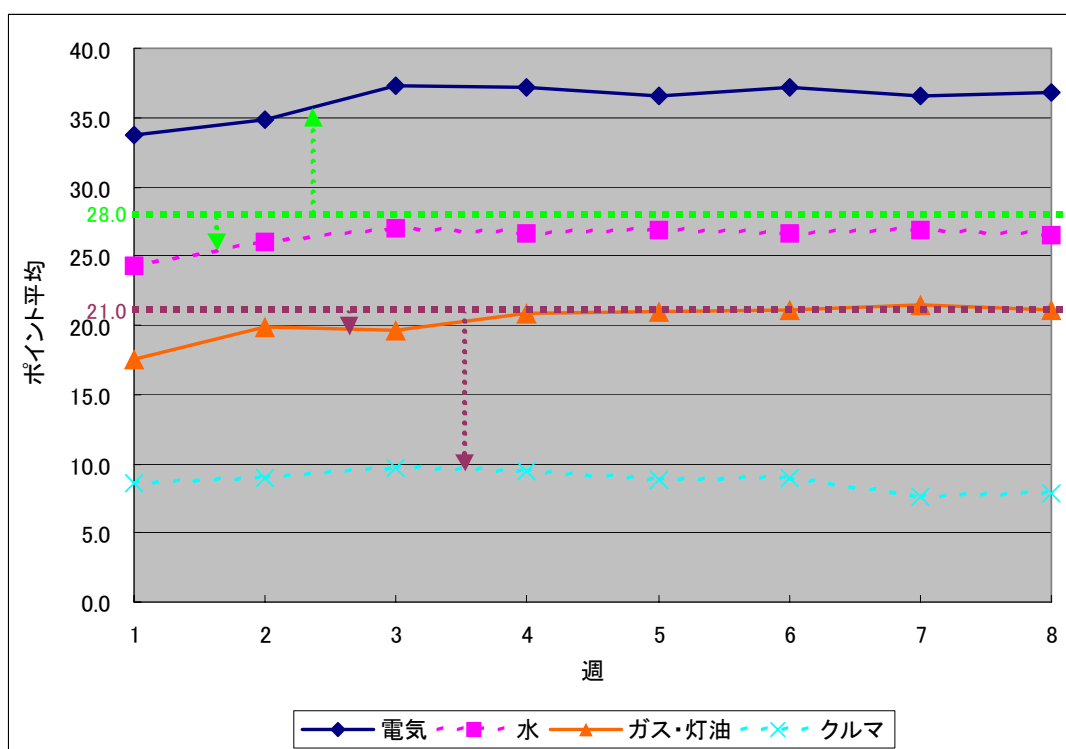
■あまりやらなかった場合・・・0 ポイント

としました。

## 5 モニター結果

30世帯の平均ポイントの推移は以下の通りです。

- ◇「電気」および「水」では、省エネ項目を毎日「取組んだ (= 1ポイント)」場合の1週間合計ポイントは、それぞれ**28**ポイントになります。
  - ・「電気」の結果は、平均で**35**ポイント以上と**28**ポイントを大きく上回っていますので、毎日1ポイント以上の取組みが実践されています。
  - ・「水」の結果は、**28**ポイントにやや足りないところを推移しましたが、前半に比べ後半のポイントが比較的高いことから、家計簿をつけた効果があったと思われます。
- ◇「ガス・灯油」および「クルマ」では、省エネ項目を毎日「取組んだ (= 1ポイント)」場合の1週間合計ポイントは、それぞれ**21**ポイントになります。
  - ・「ガス・灯油」の結果は、1週目から徐々に増加、中期以降には**21**ポイントを推移するようになりました。省エネ項目への取組みが定着したと考えられます。
  - ・「クルマ」の結果は、**10**ポイント以下で推移しました。

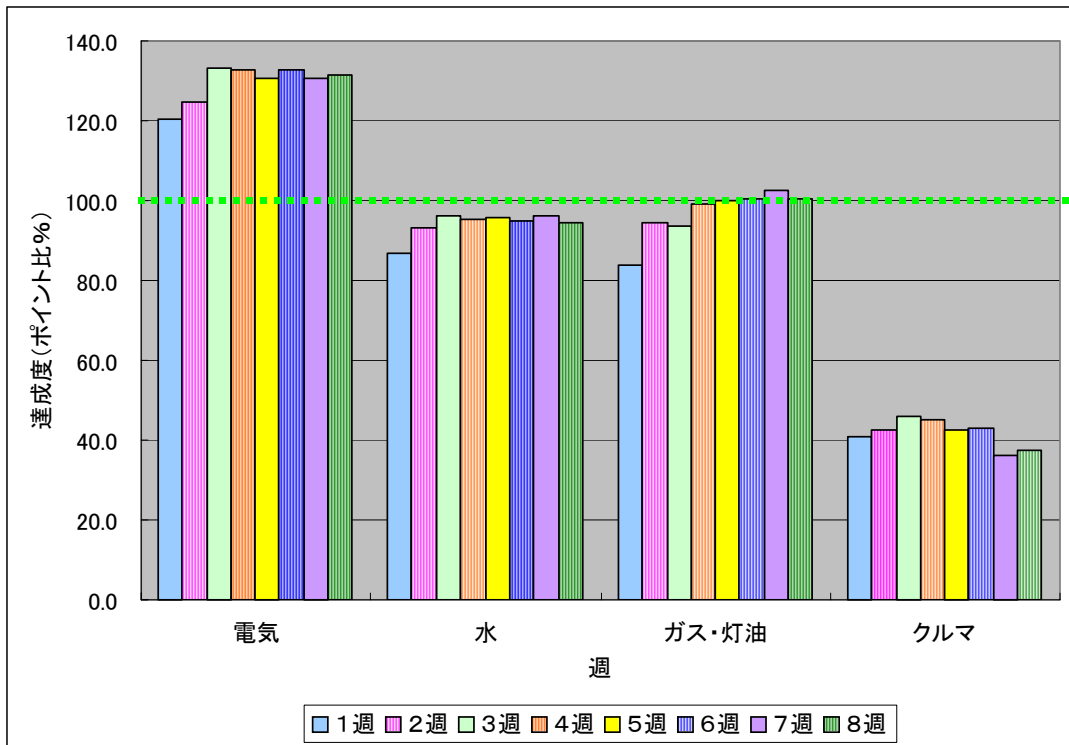




次のグラフは各項目について「取組んだ」場合を **100** とし、各項目の達成度を百分率化したものです。

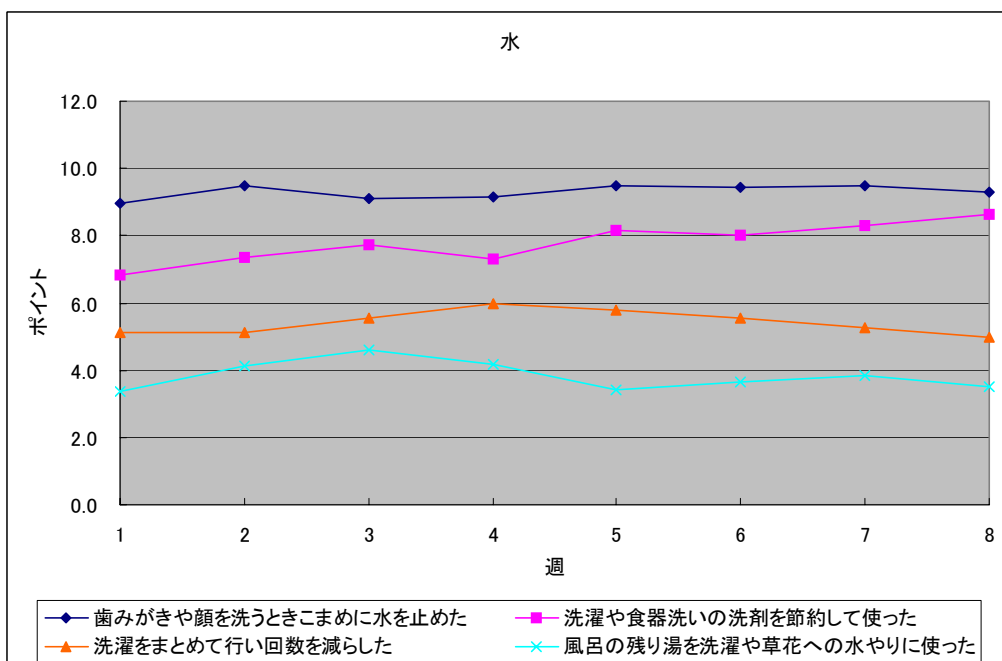
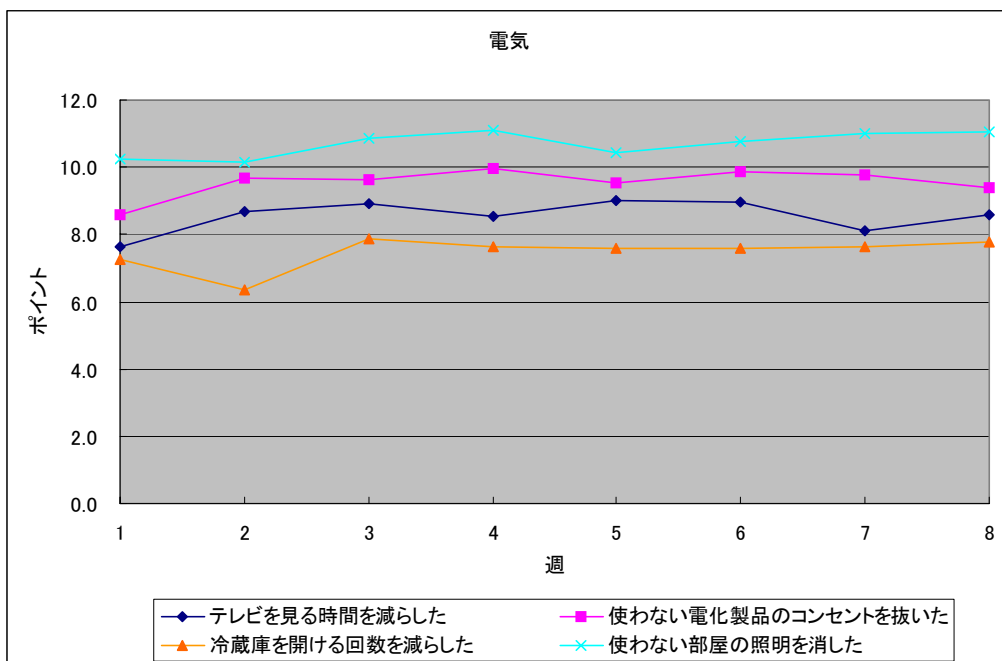
このグラフからも「電気」の省エネ項目については、積極的に取組まれた事がわかります。

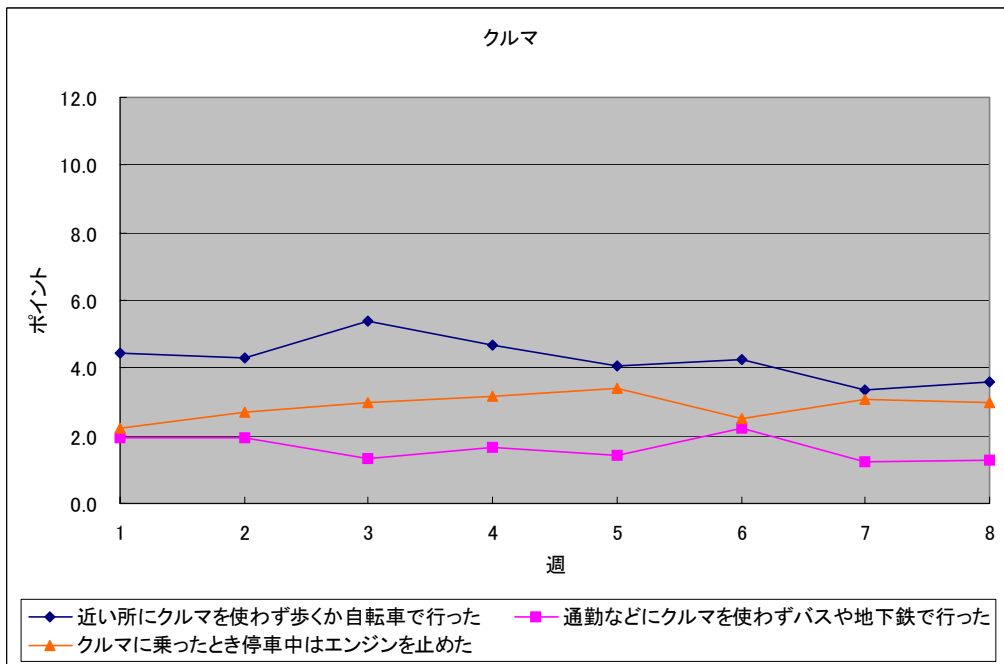
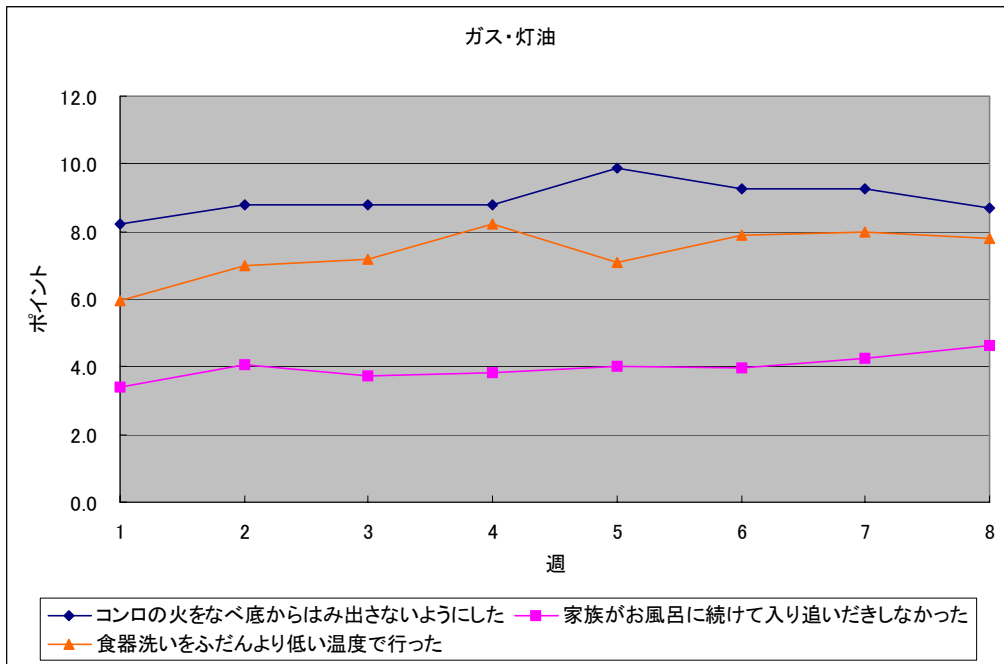
「ガス・灯油」の項目は、初期段階では **100%** 以下の実施率でしたが、4週目以降 **100%** 以上の実施率となりました。これは「電気」と同じように、省エネ行動を日常化できる可能性があるといえます。



第4章 省エネルギー等に関する市民・事業者の意識調査

項目別の結果は以下の通りです。





各行動により達成度に違いはありますが、平均化したグラフと合わせて分析してみると、取組み初期（1～2週後半）には伸びが見られる傾向にあります。

これは各行動の継続した取組みが決して実現不可能ではないということを示しているとともに、省エネ行動を継続するためには、普及・啓発活動を継続することが必要だということを示していると考えられます。

## 6 モニター終了後のご意見

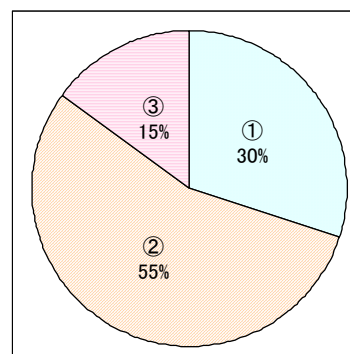
「環境かけいぼ」に対するご意見をいただくため、モニター終了後にアンケートを実施しました。

### (1) 「環境かけいぼ」の内容はどうでしたか？

#### a 取組み項目数について

取組み項目の数は、「電気」、「水」、「ガス・灯油」、「クルマ」について合計 **14** 項目実施しましたが、**55%**の方が「ちょうど良い」と答えられました。

「多い」と回答した方は **30%**、「少ない」と回答した方は **15%**となっています。



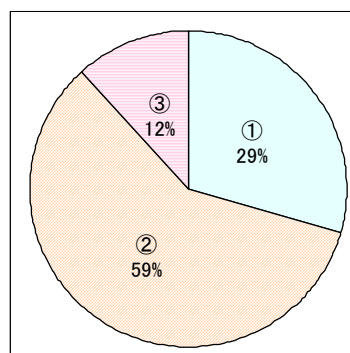
①多い ②ちょうど良い ③少ない

#### b ポイントの目安について

「迷うときもあったがまあまあ」と回答された方は **59%**となりました。

「大雑把で記入する際に迷った」と回答された方は **29%**、「迷わなかった」と回答された方は **12%**でした。

ポイントの目安については、より具体的に判断できる内容とした方が良かったようです。

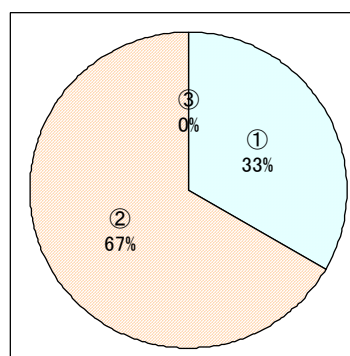


①大雑把で記入する際に迷った  
②迷うときもあったがまあまあ  
③迷わなかった

### (2) 「環境かけいぼ」の取組みを通して、ご家族の皆さんが、環境保全やエネルギーおよび資源の大切さを考えるきっかけになったでしょうか？

全員が「家族で考えるようになった」あるいは「全員ではないが考えるようになった」と回答されています。

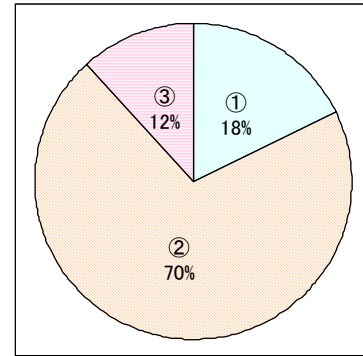
家族の一人が省エネ意識を持つと他の方々も省エネ意識を持つようになるようです。



①家族で考えるようになった  
②全員ではないが考えるようになった  
③考えなかった

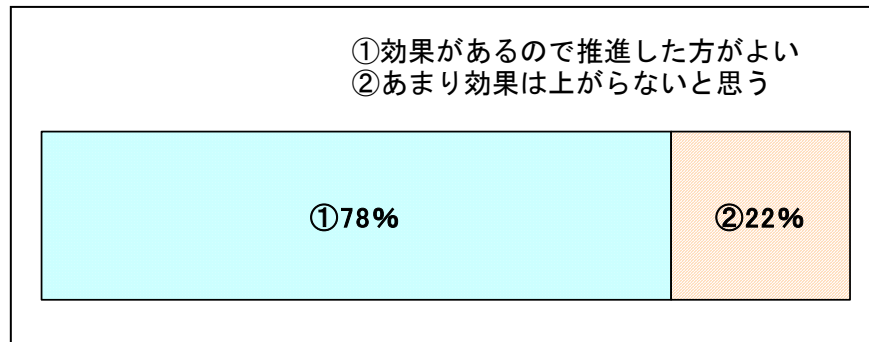
(3) 「環境かけいぼ」に取り組んで、家族のみなさんの行動は変わりましたか？

「家族が協力して取り組むようになった」と回答された方が **70%** となっており、前問の回答と同様、一人が省エネ行動を始めると、それ以外の方々も省エネ行動に取り組むようになる傾向がみられました。



- ① 最初から家族全員で省エネに取り組んでいた
- ② 家族が協力して省エネに取り組むようになった
- ③ 家族の行動に変化はなかった

(4) 北広島市で「環境かけいぼ」の普及を推進した方が良いとお考えですか？



「効果があるので推進した方がよい」と回答された方は **78%**、「あまり効果は上がらないと思う」と回答された方は **22%** でした。それぞれの方の自由意見は以下の通りです。

□ 「効果があるので推進した方がよい」

- 環境家計簿のアンケートを通して、例えばコンセントの元を切るなど、若干ではあるがエネルギーの大切さを感じてきました。
- わかってはいましたが、環境家計簿をつける事によってあらためて、実行あるのみ！と深く考えさせられました。一人一人がちょっとずつ実行することによって環境保全や環境破壊が少しでも未然に防げればと思います。今は使用する前に一歩立ち止まって考えてみることをモットーとしています。

□ 「あまり効果は上がらないと思う」

- 毎日記入するのは少し面倒でした。土・日曜日だけでも効果はあると思います。
- 自分にだけ言える事ですがうるさくなりました。男性（主人・息子）はそれでもなかなか実行してくれません。やってみてその身になってわかっていくものなんですね。